

妄想と妄想的観念とのスペクトラムに関する研究

立命館大学応用人間科学研究科

臨床心理学領域

畑山 ゆり

研究 1

今回、研究 1 において、健常者における妄想的観念について、大学生を対象に質問紙による調査を行った。

研究 1 では、妄想的観念が健常者においてみられるのか、また、みられた際には妄想的観念にはどのような特徴があるのか、また妄想的観念の主題と特徴との関連はどのようなものがあるのか、そして、これらの妄想的観念は臨床的な妄想と関連があり、連続性があるのか、について検討する。そのために、まず健常者における妄想的観念の有無、そして存在していた場合にはその実態を把握することを行った。実態把握が充分に行われたうえで、上述された検討を行った。

調査の結果から、健常者にも妄想的観念は存在することが確認され、また、その妄想的観念全体としての特徴は「抵抗感」、「訂正不能性」、「心的占有度」であった。また、妄想的観念のそれぞれの主題における特徴は、疎外妄想的観念は、。加害妄想的観念は、。被害妄想的観念においては～が特徴であった。そして、これらの健常者にみられる妄想的観念と臨床的な妄想には、同様の特徴が見られ、関連があり、両者の間には連続性があることが示唆された。

研究 2

今回、研究 2 において、主に推論障害について、統合失調症患者と健常者を対象に『ピー玉実験』と呼ばれる実験を行った。

研究 2 では、妄想を持つ者における推論障害

の存在の有無、そして、研究 1 をうけて、研究 1 の結果と合わせながら、妄想的観念と妄想における連続性だけでなく、妄想を持つ人と健常者における連続性について検討した。実験の結果から、妄想を持つ者は健常者に比べて、どちらのケースであるかの決定に至るまでの「取り出し個数」が顕著に少なかった。つまり、結論へと性急に飛躍して決定してしまう傾向があった。このことから、妄想を持つ者には推論障害があるということが言えた。また、自分の決定したケースであると思う確率についての回答を求めたところ、妄想を持つ者は過度に自分の決定に確信を持っており、これは妄想の最も重視すべき特徴の一つとされている強すぎる確信であった。これらのことから、妄想を持つ者に推論障害、性急な結論バイアス、強すぎる確信が確かに存在していた。

妄想を持つ者と健常者における繋がりにおいて、推論障害に関しては妄想を持つ者に比べて、結論へと性急に飛躍する傾向がないだけであって、健常者にも推論障害とは起こりうるものである。また、確信に関しても、研究 1 から健常者の持つ妄想的観念の特徴の一つとして現れていた。そして、合理性においては健常者のほうがむしろ不合理的な判断をしていた。これらのことから、研究 2 は妄想を持つ者と健常者の間には確かに関連があり、繋がりがあるという連続性を示唆するものであった。